

# 【ねがいましては】

平成26年11月25日

KYOWA SCHOOL

第289号

「無敵の人」

とても気味の悪い表現です。何も知らない子どもたちであったなら、きつとかつこいいで終わっているかもしれません。ある日の新聞に載っていた表現です。

「人間関係も社会的な地位もなく、失うものが何もない、罪を犯すことに心理的抵抗のない人間」のことだそうです。

代表的な人物を掲げます。つい最近の人気漫画「黒子のバスケ」脅迫事件の犯人、2008年の秋葉原の無差別殺傷事件の犯人などです。

彼らは二人とも、進学高校出身です。幼少より優等生扱いをされ続けた人物が起こした凶悪な事件です。大学受験に失敗し、親からはごみ扱いされ、就職しても過去のプライドが邪魔をし、収入の少なさに悲壮感を高める。つまり家族間の大切な絆は姿を消し、社会に出たとしても過去の栄光が毎日のようにちらつき、孤立状態になる。心と心のつながりは閉ざされたままになる。

今後、このような事件は増えることはあっても、なくなることはないであろうと専門家は指摘しているといえます。

どんなに失敗したとしても、親の庇護の下でいることができれば、犯罪という魔の手は及んではきにくいと思うのです。しかし、その親も経済的に困窮することになれば、やがて「金の切れ間は縁の切れ目」、「縁切った」と、宣告されるかもしれません。今や、年収200万円を超えるのも大変だという20代の若者たちが多くいるといえます。うまく就職の縁に恵まれた方たちとの格差は広がるばかりです。彼らの持つ感覚は、勝者か敗者。その彼らを囲むご家族の方々も、同様にうちの子は勝者、敗者として受け取っているかもしれません。

勝者、敗者、この両方に共通していえること、勝つか負けるか……。小学校へ上がった当時からすでに勝つか負けるかという評価の世界に突入、はじめのころ、子どもたちは、なぜあんなにお母さんは勉強のことをうるさく言うのだろう。間違えたくて間違えているわけではないのだけれど、なぜあんなに感情的になって叱ってくるのだろう。徐々に学校の勉強に対して恐怖心を抱くようになります。

中学校へ入り、順位付けの評価が始まります。上位は勝者、下位は敗者。同じクラスの級友たちは、やがて皆、敵になっていきます。「自分の本音は絶対に出さないぞ、ここで出したら負けてしまう。テスト勉強などやっていないといっておかなければ、今度のテストで負けてしまう。」

大切な友だちとのこころのつながりは、見事にどこかへと追いやられていきます。追い打ちがあります。「今度、となりの〇〇ちゃんに負けでもしたら、スマホなんか買ってあげないからね。」と、親からの脅迫。

そして負ける。親からは絶縁状、友だちからの信頼はとっくになし。待ち構えていた「孤独」……。

これはこの国が作り上げた「無敵の人」の初期の姿だといえると思います。問題行動こそ起こしていないにせよ、何かのきっかけで、引き金が引かれるかもしれません。

成績主義、合格主義はこの先もなくなることはないのかもしれませんが。しかし、私たちが子どもたちに対し、絶対にあってはならない歯止めの力を行使しなければ、この先もこのような事件は起こり続けるのかもしれませんが。

助け合い主義、人格主義であれば、きっと「無敵の人」という表現は死語になるのかもしれませんが。

きょうも高校生が小学生の持ってきた質問に丁寧にこたえています。小学生は尊敬のまなざしで先輩の表情を見つめます。「大きくなったら、こんな人になりたい。」

「〇〇ちゃん、いい人に会えてよかったね。これからもいい人にたくさん出会えたらいいね。そうしたら、今の勉強も、もっと楽しくなるわよ。」母からのあたたかい言葉。

そんな出会いがあふれる空間を用意する必要があると思います。ここはそんなところですが、でも、圧倒的に少ないのです。能力別に区切られた教室で、競い合うことが必至とされ、負けたものはクラスを落とされる。それが塾だと当たり前のように連想させてしまう塾業界。

助け合いながら、ニコッとお互いに笑顔を交わしながら、思い思いに自分の目標に向かって取り組む勉強。学校での成績はボロボロでも、今までわからなかったことがわかるようになった時のうれしさが忘れられなくて、どんどん先へ進みたくなった。年下の子が年上の子にアドバイス。

分校みたいな空間だけれど、なぜか安心感が漂っている。素朴な質問も、何の抵抗もなくできてしまう。ひとつの問題に、もう1時間30分もかけている。

この光景、我が家の普通の光景。

では問題です。そんな光景の中で育った子たちは、果たして「無敵の人」になるのでしょうか。

これからも助け合う勉強、自分で自分をしっかりと見つめながら、自分のスピードでこつこつと学んでいく教室であり続けます。

なんだか、皆が皆、兄弟関係になっているよね。それも全くケンカをしない仲の良い兄弟ばかりが揃っている。

そんな光景、ご両親にご覧いただきたいのです。きつとこころが温まります。みんなありがとうね。